

鴨東運河の散歩道

本シリーズでは、琵琶湖疏水の取水口のある「大津運河」を出発点とし、小関越えをして「山科疏水」に達し、屈曲した四季の変化に恵まれた散歩道を楽しみ、蹴上の疏水公園で疏水の歴史に触れたあと、インクラインを降りて南禅寺舟溜りに至る疏水の流れに沿った散歩道を紹介してきた。今回は、琵琶湖疏水の全散歩道の中でもっとも優美な散歩道である「鴨東運河」について、いくつかの注目点を紹介したい。

「鴨東運河」とは、南禅寺舟溜りから西に向かって約600m直線に進み、そこから北に向かって直角に約400m進み、さらに西に向かって直角に約800m進んで鴨川に突き当たるまでの全1800mの流れの呼称である。20m弱の川幅のゆったりした水の流れは、岡崎エリアの外堀を形成しており、よく整備された散歩道（六勝寺のこみち）が疏水の流れの外側に付設されている。



4月・桜の季節の十石舟で有名な鴨東運河



平安神宮の慶流橋を遠望する秋の風景

桓武天皇は、延暦13年(794)に京都盆地の中央部に中国の長安の都をモデルとして「平安京」を造営したが、平安建都1100年を記念して、平安京の代表的建物である大内裏朝堂院を3分の2に縮尺して「平安神宮」を岡崎の地に造営している。現在、平安京時代の面影を残す唯一の大型建物としてその存在価値はきわめて高い。

岡崎地区は、平安京以降に日本の政治の中心になったことがある。1072年に即位した白河天皇は、三十歳代後半に8歳の実子に譲位して上皇となり、そのご5代にわたる70年間の政権の座を維持したという「院政」の場が岡崎であった。このとき建造された六勝寺（法勝寺・尊勝寺・最勝寺・円勝寺・成勝寺・延勝寺の六寺の総称）の敷地が、鴨東運河の外堀の中にピッタリと収まっている。現在残っているのは所在地を示す石標のみであるが、世界でも例の少ない「院政」の最初の例として石標めぐりをして昔の栄華を思い起こすのも楽しいことである。



平安神宮の正面に立つ応天門



六勝寺の最大規模である法勝寺の模型

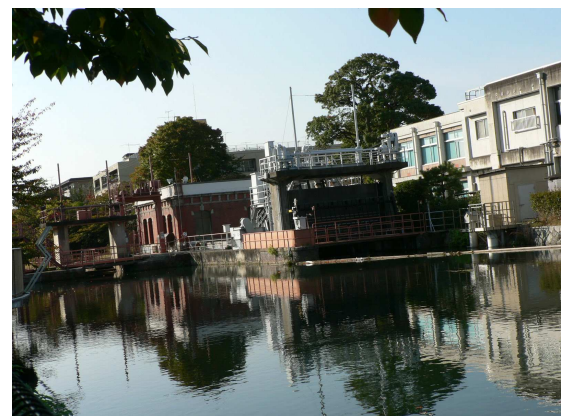
岡崎地区のもう一つの顔は、京都市随一の文化ゾーンを形成していることである。京都国立近代美術館・京都市美術館・京都府立図書館・観峰美術館・細見美術館・京都会館・京都観世会館・京都市勧業館みやこめっせ・京都市武道センター・京都市動物園・藤井有鄰館など近隣を含めると20ヶ所を超える美術館や文化施設が集中している。

また著名な神社や仏閣として、平安神宮・日向大神宮・南禅寺など多くの寺社が集中しており、琵琶湖疏水の水を庭園に引いた無鄰菴・平安神宮神苑・南禅寺庭園・金地院庭園など20指に近い近代庭園の存在も岡崎地区の特徴である。

また明治の面影を残した蹴上浄水場・蹴上発電所・夷川発電所も稼動しており、琵琶湖疏水記念館・インクライン・ねじりまんぼなど明治近代遺産を語る施設も保存されている。



南禅寺舟溜りの東奥にある琵琶湖疏水記念館



夷川舟溜りの西北部にある夷川発電所の外観

このように鴨東運河の周辺には数多くの史跡や公園、寺社仏閣があり、私自身5ヶ年かけても未知の場所が残っている。繰り返し目的を変えて訪ねることを考えると、無限の組み合わせが考えられそうである。JR・近鉄・阪急・京阪とつながっている京都地下鉄の蹴上駅で下車すればあとは徒歩で充分見学できる場所が「岡崎・東山地区」であるので、ぜ

ひ機会を見つけて楽しんでほしい。

関連ホームページ http://www.geocities.jp/biwako_sosui/

琵琶湖疏水の歴史観光開発を推進する 近代京都の礎（いしずえ）を観る会

会長 高桑暉英